

注、このCG集は腹ポテオンリーCG集です。
腹ポテ、妊婦画像の苦手な方はご遠慮ください。



「ああんつー。」
「まだ、あつた。お前は少し黄いわよ。」
「そんな、広げても度々こないわ。お前が遊んでいいのは子宮口まで。」
「それからは先はあちかん。腹までだから、使いなさい。」

「ああんつー。」
「まだ、あつた。お前は少し黄いわよ。」
「そんな、広げても度々こないわ。お前が遊んでいいのは子宮口まで。」
「それからは先はあちかん。腹までだから、使いなさい。」

境界線上のホラ○ゾン
腹ポテCG集

武蔵の双乳
孕ましました！
滞空ワークス

「あら、どうしたの？目をまんまるく見開いちやつて？」

「もしかして、このお腹見て怖気づいた？」

「でも、これは、この完璧な私を激しく求めた結果よ！」

「男ならちゃんと責任取りなさい♡」

左ぶん

ぽん

「うっふっ、すげーいいでしょ。
よく見なさい♡。」

ぐっぐっ
ぐっぐっ
ぐっぐっ

ポ
ポ
ポ

ポ
ポ
ポ

「勿論、Hするわよね。私が
したいって言うてるんですもの
貴方に断る理由なんかはないの。」

「こんな、お腹なのに貴方の
オチ○ポが欲しいって
泣いてるわ♡。」

「オマ○コのだらだらが、こんなに
肉厚になって黒く醜くポツカリ
膣口を開いてお尻の穴もプツクリ
飛び出してヒクヒクして♡。」

びしょん、

むちっ♡

むちっ♡

「だって、そうでしょ。私をカタにはめたのは誰かしら♡。」

「私のオマ○コ○んなにしたのは誰かしら♡。」

「本気の種付けSEXして孕ませたのは何処の誰かしらあ♡♡。」

「実った果実は最後まで収穫してもらおうわよ♡。」



「ああんっ♡。」

「もっと、よく見せろ
ですっ♡。」

ふはぁ

ゴォォ

「ララ♡まだ、実った果実は
少し青いわよ!。」

「そんなに拡げても産まれては
こないわ貴方が遊んで
いいのは子宮口まで♡。」

「そこ」から先は赤ちゃん
産まれてから、使いなさい♡。」

クゥ

ハァ

イェ

ん



← ぐわい

逃げはしないわよ♡♡♡

「私は何処にも

「もう少しドツシリかまえて
ほしいわね♡。」

「んっ♡もう、そんなに息荒げて
まったく・サカリのついた
野良犬みたい♡。」

「きやあっ♡。」

めうざい

「ほんっ♡んん♡熱いイ
こんなに太くビクビクさせて膣口が
火傷するぐらい熱くて硬いの♡。」

はっ♡

キュキュ♡

びく♡

ニクニク♡

びく♡

「来てえ♡一気に
底までズブンツて♡。」
「あん♡そう思っただけで
お腹の奥がキュンキュンする♡。」
「ウフフ、今日もこれで私を
メチャクチャにしてく
れるのかしら♡。」

「にひひひいん♡」

す

「にひひひいいい♡」

「オチのポオ、すごい。お肉う奥まで押し上げられてえい・深くまで♡」

「来っつったああ♡」

ホテ





「ひゅん♡届いてるう
奥くう、子宮口までエ♡。」

「あっああっ♡ぐぼおぐぼお
カー杯ねじ込んじや..
にいひ♡♡。」
「子宮があ...やああ♡
赤ちゃん袋の形が
変わっちゃう♡♡。」
「オチ○ポに突き上げられて
形が変わっちゃう♡♡。」

ぐぼお

おーおー

ひゅん

ひゅん

ぐぼお

ぐぼお

め
ちゅ
ん
ん
ん

「あひいん♡激しいいん♡♡。
「オチのポ根本まで打ち付けて
深く貫いてるう♡♡。」

だぶしゅ

「にやい♡私、獣みたいに
犯されて膣なかをグチュグチュに
掻き回わされてるう♡。」
「いい♡いいわ♡...もつと
もつと
激しく壊してえ！もつとおお♡♡。」





「あああああああ♡♡♡♡」

「オチのポオ♡子宮口に
どちゅんってエ♡♡♡」

「やだア、そんなにねぶっちや♡
子宮口は・・・その先は、
らめえええ♡♡♡」

「そんな風に動いちや
ほぐれちやう♡♡」

「子宮口・・・
ほぐれちやうよお♡♡♡」

アッ

ガッ

ドム



はぁ♡

「あいん♡はっ...ええっ膣なかで一段と大きく♡。」
「あっ...これ、ラストスパート♡。」

「射精だすのね...いいわ来なさい♡♡♡。」
「貴方の精子でえ、私の全てを汚してみなさい♡。」
「全部、受け止めてあげるから♡♡。」

「ふひいん♡奥うう♡」

「ああ♡また、大きく♡カリ首膨らませて、赤ちゃん袋ねぶってる♡」

「いいひ♡仕留めようしてる♡本気で仕留めるようしてる♡」

ぞくぞく

ぞくぞく

ブーッ

カッ

ブーッ

「いい・・・すごい♡子宮口にこんなにえぐるように密着させて・・・全弾撃ち込もうてっ必死になって♡♡」

「全部流し込もうとしてるう♡♡」



「ひゅん・・あっああ♡
オチのポオ、ビクビクいって♡。」

「にー！カリの部分しかつり
引っ掛けて子宮口をマウント
してるぅっ♡。」

「来るっ♡くるっくるっくる
精子♡♡♡。」

「来るっ♡くるっくるっくる
くるっくるっ。」

「来るよオおおお♡♡♡。」



「はほお・・・熱い・・・にいい。」

あぁあぁあぁ

あぁあぁあぁ

「おほおおおおおおおお」

「弾けてエー・・・」



「はー♡はー♡」

「んん♡すっ♡いい♡」

「三」んなに..
収まり切らない♡♡」

「ゆるさないわよ、こんなに
花を無残に散らせたんですもの
..少し休んだらもう一回..」

とっお

ぽぽ

くぐ

ええ

「変な音立てて逆流してるう
んん、オマ○コ開きっぱっなしで
閉じなくなつて..フフ♡」





「えっちよつと、
すぐにですって！」

「やあ・そんな、もうカチカチ。」

「きやいはいんん♡♡♡」

「待ってえ♡イったばかりで
オマ○コ敏感に
・あにイ♡♡♡」

「ちゃん♡」

「ががが」

「イクツ♡イクツウウ♡♡♡」

「また、腹ボテオマ○コで

イツちやうう♡♡♡」

「あら、どうしたんですか？
そんな所で突っ立ってて。」

「あん♡やですよ、そんなに
ジロジロ、お腹見ちゃ。」

「あら、どうしたんですか？」

「「うなったのは、貴方が私に
ズドンした結果です♡。」

「ラララ、いつもはみんなから
言われてますけど今回は
私が言っちゃいました♡。」

「さあ、こちらに来てお腹
さすってあげてください♡。」

「きゃあああ♡」

「んっ♡もうっいきなり服脱がせて
本当はこれが目的だったん
ですわ・悪い人♡」

むちゅ♡

ポッテッ

ぽっ♡
こり♡

むちゅ♡

「えっオマ○コ○のビラビラがポツテリ
厚くてオチン○ポに吸い付いて
気持ち良さそうですって?」

「もう!誰のせいでこんな風にな
ったと思ってるんです。お尻の穴も
飛び出してしまっ気にしてるんですよ。」



くばあ

むぎゅん
ぎゅん
うん
いゅん

プス

プス

うん
いい♡

「えっ今度はオマのこ拡げて
見せてほしいって……うう……
もう、少しだけですよ。」

「んん……やんっ膣口が空気吸って
変な音立ててポツカリ奥までエ♡。」

「やだあ……ジツと見られちゃ
お腹の奥が熱くなつて濡れて
きちやいます♡。」

「あっ恥かしい……もういいですよね。
あん♡……もう少して、そんなに
凝視しなくっても♡。」

カアア♡



じんわり♡

うん♡

「ああん♡」

「いやあ!指で膣口^{おくち}ちや♡」

うん♡

あ♡

「そんな、お汁が子宮口から出て濡れる所が見たいって!そんな変態じみたことしないでください♡」
「あっ、やああ!見ないで!見ちゃいや・ん♡でも、子宮の奥がキュンってする♡
恥かしいはずなのに・・すごくドキドキして身体が熱くなる♡♡」

「きゃあん！」

「どっどっしたんですか急に。」

「えっもう、Hしたくなかったて。ちよっ、やあん
本当に自分勝手なんですから♡。」

てろおお♡

おくら

ホテッ

たん

たん

うん♡

「やあっ、そんなにオマ○濡らして
それはないんじゃないかって...
もう！そーゆうのはスルーのが
礼儀です♡。」

「うーいじわる♡♡♡。」

「はうん♡熱っ、ああっ♡♡
硬いっ・・・こんなにパンパンに
なってるっ♡。」

「これから、それが私の
オマ○コを貫くのですね♡。」

むぎゃ

ズチャっ♡

ムリムリッ

「早く♡・・・その太くて鋭い矢で
私の腹ボテオマ○コを射抜いて
昇天させてください♡。」
「フフ♡そう思っただけで
ドキドキしちゃっ♡。」





とっおん

ぞんぞん

ぞん

ぞん

「あいいい...」
「あひいいいいいん♡♡♡」
「キタア！奥までエ
深い所までズドンッてエ♡」

「ああ♡すごいミチミチいって
掻き分けて子宮口まで一気にイ♡」
「ひんっ頭が真っ白に♡あはあ♡
飛んじやったあ♡一突きされた
だけで、私、飛んじやったア♡♡♡」

＃
め
ま
ま
う♡

ろ
ろ
♡

「ぬい
い
い
い
♡」

「そんな、そ
子宮口まで届いて
あ♡ああー♡♡」
あ♡♡

「そんな、えぐるように
ズチユズチ♡弱い所
だめえ、そんな所ばっかリイ♡」

「だめエ♡

駄目駄目駄目♡

ダメー♡♡♡」



♡ちゅ♡
♡ちゅ♡

「ふはああん♡」

「やだあ子宮口をほぐすように
しっかり最後まで突いちゃ
あん♡」

「だめえゆるして♡」

「ひうん♡気持ちよくなって
カが入らな・あいん♡」

「ゆるくなつちやう！
子宮口ゆるくなつて
届いちやうよオ♡♡」

まで



もも

うらうら♡

めめ

めめ

めめ

はっ

「ひいん♡だめええ！それだけはゆるさないんだから！ママゆるさないんだからあ♡♡。」

「あア・・・ああん、あっあっ♡そんなに激しくこじ開けちゃ・・・ふむお♡♡。」

はっ

「いうん♡おほおう♡♡開くうう♡子宮口ひらいちやう♡♡。」

「だめエだめエよ♡まだ早い！赤ちゃんに会いたいって産まれてからにいい♡はう♡。」



「ふひいんん♡らめえ♡。」

「今度は角度変えて
根本まで一気にイ♡♡。」

「ああ・・・にいひいん♡
ゆるしてエ・・・もう、何も
考えられなく・・・ん♡頭に
電気が走ってもう・・・イクツ♡。」

あゝんば

あゝんば

あゝんば

「イツちやうよオ♡♡。」

「イツちやう・・・。」

ぞん

ぞん



「にやは♡あんっ、なに？子宮口を
押し上げる度にオチ○ポの先が
ビクビクって♡♡。」

「えっ・・・私がイクツと
同時に射精すって！
子宮にねじ込むって！♡。」

ビクビクビク♡

あゝあゝあゝ♡
あゝあゝあゝ♡

あゝあゝ♡

あゝあゝ♡

「そんなのダメよ！一番、無防備な
所に・・・あへえ・・・♡。」
「おほおほおほ♡♡♡。」



フハッ
おぼ。

あ
がくっ

「イクッ！」
「イクイクッ」
イクーッ♡♡♡

がくっ

がくっ

「あ——♡ゆるるひてえー♡♡♡」

「イツちやう♡♡イツちやう♡♡♡」
「ごめんなさい……ママ……」
もう、ダメかもオ♡オチ○ポオ
気持ちよくなって子宮口
開いてイツちやう♡♡♡



おっ
おっ

ん
ん

お
お

あ
あ

「あ・・あー♡あああ♡。」

「んっ、ああ・・。」ごめんなさい
ママ・・子宮の中まで
射精♡ゆるしちやっただ♡。」

「でも、ゆるしてね♡パパの
オチのポすごく気持ちがいい
んだもん♡。」

「気持ちよ過ぎて・・オマ○
んに♡閉じなくなっただ♡。」

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ



「ほうん♡えっ何？赤ちゃんが
楽に産まれて来るように
オマ○コをもっと広げるって……。」

「あん♡待って、少し休ませて
今は身体が敏感に……。」

「ぬひいいいん♡♡♡。」

「やめえ……広がっちゃう♡
本当に広がっちゃう♡♡♡。」

ぞわ♡

ぞわ♡

やわ♡

わん♡

ん♡

ん♡

「あら、どうしたの？目をまんまるく見開いちやつて？」

「もしかして、このお腹見て怖気づいた？」

「でも、これは、この完璧な私を激しく求めた結果よ！」

「男ならちゃんと責任取りなさい♡」

左ぶん。

ぽんぽん

「ウフフフ、すごいでしょ。
よく見なさい♡。」

ぐぐぐえんっ

ポ
ポ
ポ

ポ
ポ
ポ

「勿論、Hするわよね。私が
したいって言うてるんですもの
貴方に断る理由なんかはないの。」

「こんな、お腹なのに貴方の
オチ○ポが欲しいって
泣いてるわ♡。」

「オマ○コのだらだらが、こんなに
肉厚になって黒く醜くポツカリ
膣口を開いてお尻の穴もプツクリ
飛び出してヒクヒクして♡。」

びしょん、

むちっ♡

むちっ♡

「だって、そうでしょ。私をカタにはめたのは誰かしら♡。」

「私のオマ○コにこんなにしたのは誰かしら♡。」

「本気の種付けSEXして孕ませたのは何処の誰かしらあ♡♡。」

「実った果実は最後まで収穫してもらおうわよ♡。」



「ああんっ♡。」

「もっと、よく見せろ
ですっ♡。」

ふはぁ

ゴォォ

クゥ

ハァ

ハァ

「ラァ♡まだ、実った果実は
少し青いわよ!。」

「そんなに拡げても産まれては
こないわ貴方が遊んで
いいのは子宮口まで♡。」

「そこ」から先は赤ちゃん
産まれてから、使いなさい♡。」

ん



← ぎゅ

「きゅあつ♡。」

「んっ♡もう、そんなに息荒げて
まったく・サカリのついた
野良犬みたい♡。」

「もう少しドツシリかまえて
ほしいわね♡。」

「私は何処にも
逃げはしないわよ♡♡。」

めうざい

「ほんっ♡んん♡熱いイ
こんなに太くビクビクさせて膣口が
火傷するぐらい熱くて硬いの♡。」

はっ♡

キュキュ♡

びく♡

ニクニク♡

びく♡

「来てえ♡一気に
底までズブンツて♡。」
「あん♡そう思っただけで
お腹の奥がキュンキュンする♡。」
「ウフフ、今日もこれで私を
メチャクチャにして
くれるのかしら♡。」



ぐボオ

おーおー

ひゅん

ひゅん

ひゅん

ひゅん

「オチ○ポに突き上げられて
形が変わったやう♡♡♡♡♡」

「子宮があ・・・やああ♡
赤ちゃん袋の形が
変わったやう♡♡♡」

「あっああっ♡グボオグボオ
カー杯ねじ込んだんじゃ・・・
にいひ♡♡♡」

「ひゅん♡届いてるう
奥くう、子宮口までエ♡」

あひん
んんん

「あひん♡激しいん♡♡。
「オチのポ根本まで打ち付けて
深く貫いてるう♡♡。」

だぶん

「にやい♡私、獣みたいに
犯されて膣なかをグチュグチュに
掻き回わされてるう♡。」
「いい♡いいわ♡…もつと
激しく壊してえ！もつとおお♡♡。」





はぁ♡

「あいん♡はっ...ええっ膣なかで一段と大きく♡。」

「あっ...これ、ラストスパート♡。」

「射精だすのね...いいわ来なさい♡♡♡。」

「貴方の精子でえ、私の全てを汚してみなさい♡。」

「全部、受け止めてあげるから♡♡。」

「ふひいん♡奥うう♡」

「ああ♡また、大きく♡カリ首膨らませて、赤ちゃん袋ねぶってる♡」

「いいひ♡仕留めようしてる♡本気で仕留めるようしてる♡」

ぞくぞく

ぞくぞく

ブーッ

カッ

ブーッ

「いい・・・すごい♡子宮口にこんなにえぐるように密着させて・・・全弾撃ち込もうてっ必死になって♡♡」

「全部流し込もうとしてるう♡♡」



「ひゅん・・あっああ♡
オチのポオ、ビクビクいって♡。」

「にー！カリの部分しかつり
引っ掛けて子宮口をマウント
してるううう♡。」

「来るう♡精子♡♡♡。」

「来るっ♡くるっくるっくる

くる、くる、くる、くる。」

「来るよオおおお♡♡♡。」



「はほお・・・熱い・・・にいい。」

あぁあぁあぁ

あぁあぁあぁ

「おほおおおおおおおお。♡♡」

「弾けてエー・・・」



「はー♡はー♡」

「んん♡すっ♡いい♡」

「三」んなに...
収まり切らない♡♡」

「ゆるさないわよ、こんなに
花を無残に散らせたんですもの
...少し休んだらもう一回...」

とっ
おっ

ぽっ
ぽっ
ぽっ

くっ
どっ

えん
えん

「変な音立てて逆流してるう
んん、オマ○コ開きっぱっなしで
閉じなくなっって...フフ♡」



「えっちよつと、
すぐにですって！」

「やあ・そんな、もうカチカチ。」

「きやいはいんん♡♡♡」

「待ってえ♡イったばかりで
オマ○コ敏感に
・あにイ♡♡♡」

「イクツ♡イクツウウ♡♡♡」

「また、腹ボテオマ○コで

イツちやうう♡♡♡」

ぐんぐん

ががが

ちゃん♡

「あら、どうしたんですか？
そんな所で突っ立ってて。」

「あん♡やですよ、そんなに
ジロジロ、お腹見ちゃ。」

「あら、どうしたんですか？」

「どうなったのは、貴方が私に
ズドンした結果です♡。」

「ラララ、いつもはみんなから
言われてますけど今回は
私が言っちゃいました♡。」

「さあ、こちらに来てお腹
さすってあげてください♡。」

「きゃあああ♡」

「んっ♡もうっいきなり服脱がせて
本当はこれが目的だったん
ですわ・悪い人♡」

むちゅ♡

ポッテッ

こりゅ♡

ぽっ♡

「えっオマ○コ○のビラビラがポツテリ
厚くてオチン○ポに吸い付いて
気持ち良さそうですって?」

「もうっ!誰のせいでこんな風にな
ったと思ってるんです。お尻の穴も
飛び出してしまっ気にしてるんですよ。」

くばあ

むむむ
ぎゅ
う
いゅら

プス

プス

うに
いい♡

「えっ今度はオマのこ拡げて
見せてほしいって……うう……
もう、少しだけですよお。」

「んん……やんっ膣口が空気吸って
変な音立ててポツカリ奥までエ♡。」

「やだあ……ジツと見られちゃ
お腹の奥が熱くなつて濡れて
きちやいます♡。」

「あっ恥かしい……もういいですよね。
あん♡……もう少しって、そんなに
凝視しなくても♡。」

カアア♡



じんわり♡

うびん♡

ぬしゅ♡

グニグニ♡

キュ♡

「ああん♡。」

「いやあ！指で膣口おくち広げちや♡。」

「そんな、お汁が子宮口から出て濡れる所が見たいって！そんな変態じみたことしないでください♡。」

「あつ、やああ！見ないで！見ちゃいや・ん♡でも、子宮の奥がキュンってする♡恥かしいはずなのに・すごくドキドキして身体が熱くなる♡♡。」



「きゃあん！」

「どっどっしたんですか急に。」

「えっもう、Hしたくなかったて。ちよっ、やあん
本当に自分勝手なんですから♡。」

てろおお♡

おくら

たん

ホテッ

たん

うん♡

「やあっ、そんなにオマ○濡らして
それはないんじゃないかって...
もう！そーゆうのはスルーのが
礼儀です♡。」

「うーいじわる♡♡♡。」

「はうん♡熱っ、ああっ♡♡
硬いっ・・・こんなにパンパンに
なってるっ♡。」

「これから、それが私の
オマ○コを貫くのですね♡。」

むぎゅ

ズチャー♡

ムリムリッ

「早く♡・・・その太くて鋭い矢で
私の腹ボテオマ○コを射抜いて
昇天させてください♡。」
「フフ♡そう思っただけで
ドキドキしちゃっ♡。」





とっおん

あう

ぞん

ぞん

「あいいい...」
「あひいいいいいん♡♡♡」

「キターア！奥までエ
深い所までズドンッてエ♡」

「ああ♡すごいミチミチいって
掻き分けて子宮口まで一気にイ♡」
「ひんっ頭が真っ白に♡あはあ♡
飛んじやったあ♡一突きされた
だけで、私、飛んじやったア♡♡」

♡ちゅ♡
♡ちゅ♡

「ふはああん♡」

「やだあ子宮口をほぐすように
しっかり最後まで突いちゃ
あん♡」

「だめえゆるして♡」

「ひうん♡気持ちよくなって
カが入らな・あいん♡」

「ゆるくなつちやう！
子宮口ゆるくなつて
届いちやうよオ♡♡」

まで



「いっくん♡おほおう♡♡
開くうう♡子宮口
ひらいちやう♡♡。」

「だめだめエよ♡まだ早い！
赤ちゃんに会いたいわって
産まれてからにいい♡はう♡。」

「あア…ああん、あっあっ♡
そんなに激しく
こじ開けちゃ…ふむお♡♡。」

「ひいん♡だめええ！それだけは
ゆるさないんだから！
ママゆるさないんだからあ♡♡。」

もも

ぐらぐら♡

め

め

め

はっ

はっ

はっ

はっ

「ふひいんん♡らめえ♡。」

「今度は角度変えて
根本まで一気にイ♡♡。」

「ああ・・・にいいひいん♡
ゆるしてエ・・・もう、何も
考えられなく・・・ん♡頭に
電気が走ってもう・・・イクツ♡。」

あゝんば

あゝんば

あゝんば

「イツちやうよオ♡♡。」

「イツちやう・・・。」

ぞん

ぞん



「にやは♡あんっ、なに？子宮口を
押し上げる度にオチ○ポの先が
ビクビクって♡♡。」

「えっ・・・私がイクツと
同時に射精すって！
子宮にねじ込むって！♡。」

ビクビクビク♡

あ♡あ♡あ♡
あ♡あ♡あ♡

あ♡あ♡あ♡

あ♡あ♡あ♡

「そんなのダメよ！一番、無防備な
所に・・・あへえ・・・♡。」
「おほおほおほ♡♡♡。」



あひが

フハ
おぼ

「イクッ!」
「イクイクッ
イクーッ」

がく

がく

「あー♡ゆるるひてえー♡♡♡」

「イツちやう♡♡イツちやう♡♡♡」
「ごめんなさい...ママ...
もう、ダメかもオ♡オチ○ポオ
気持ちよくなって子宮口
開いてイツちやう♡♡♡」





「のほおおおおおおおお」♡♡

ア♡ア♡

ぞん♡

ぞん♡

「にイイイ！熱いのが奥に広がってエ♡」

「ほオわああ♡」

ア♡ア♡

ア♡ア♡

ア♡ア♡

ア♡ア♡



「ほうん♡えっ何？赤ちゃんが
楽に産まれて来るように
オマ○コをもっと広げるって……。」

「あん♡待って、少し休ませて
今は身体が敏感に……。」

「ぬひいいいん♡♡♡。」

「やめえ……広がっちやう♡
本当に広がっちやう♡♡♡。」

「お♡♡♡」

「お♡♡♡」

ガッ
ガッ

ガッ
ガッ

ガッ
ガッ